

令和6年度 学校評価表の目標達成のための重点事業

部署	関連項目	令和6年度 目標達成のための重点事業	評価	改善点・提言	成果と反省(来年度に向けて)
教務・庶務・防災	10.11	保護者・地域への的確な情報発信	A	・ペーパーレス化推進を続けるとともに、学校だよりや校長通信などホームページ更新を増やし学校の様子を発信する機会を増やした。 ・職員会議もペーパーレス化を定着させ、クラウド上に共有化するなど工夫を続けている。	・校長通信は昨年より発行回数が増え、ホームページ更新も定期的に行うことができた。 ・様々な業務において職員の負担軽減を図るよう、やり方を変えた工夫した必要がある。
	1.2	組織として円滑な学校運営	B	・コロナ禍前の状態に戻すことが、すべてを元に戻すことせず、生徒の実態に即した柔軟な校務運営を心掛けている。	・防災計画書が改善され、次は防災意識を高められるような訓練の計画を立てていく。
	1.10	職員間での適切な情報の共有の推進	A	・南海トラフ地震発生に備え、防災計画を大幅に見直し、職員や生徒に対して防災意識を高めることを行った。	
	2.9	防災訓練の実施と工夫	B		
情報ネットワーク	12.4	校務用情報機器の整備・保守	B	・一人一台端末の導入も4年目を迎え、全校生徒に対して、タブレット端末を活用した教育活動を行うことができるようになった。アプリケーションの導入も視野に入れたが、一層効果的な活用を促進できるような取り組みを行った。	・新任職員への校務用パソコン・アカウントの配布に加え、ICT機器の説明会を行うなど、一層の丁寧な対応に努めた。 ・「ロイノート」の導入などを契機として、BYODの積極活用が見られた。 ・採点システムやCanvaなど、新規ソフトウェアが年々導入され、利便性が高まっている一方、初期設定や年次更新の負担、教職員への周知、担当者が変わる際の引き継ぎなど困難も生じている。 ・備品管理や物品購入など、事務室との連携を更に行えるよう努めた。
	12.4	校務用アカウント・ソフトウェアの管理	B	・情報機器やケーブル等の貸出管理が数通しがらみであり、適切な管理方法について検討が必要である。	
	12.4	校内ネットワークの管理、情報セキュリティの強化	B		
	1.6	学習用ICT機器、1人1台タブレット端末の導入・活用	B		
授業計画	5.6	学習効果を高める時間割編成の研究	B	・バランスの取れた時間割編成ができるよう研究し取り組みたい。 ・定期考査については、着実に計画、実行している。特報発表、3年テスト直前もバランスを考えて計画した。 ・科目選択/講座編成については、教育課程委員会でも連携し、早い時期から取り組んでいる。	・定期考査については着実な時間割作成を行った。12月の3年生、3月の1・2年生の答案返却も予定通り計画を立てた。突然の休校にも対応することができた。 ・新教育課程3年目となり、全ての学年において正・副担任で協力しながら授業に組み込むことができた。科目選択/講座編成については、生徒にとっても職員にとってもバランスよい時間割となるよう引き続き努力したい。
	5.6	考査・特報の計画・実施	B		
	5.6.7	科目選択及び講座編成の工夫	B		
進路指導	5.6	進路通信・学年進路通信の発行・模試結果の分析	B	・各学年の進路行事・模試をはじめ、信州大学説明会、大学模擬講義、予備校講師を招いての医学科セミナー、入試研究会、受験対策講座などを、計画に基づいて実施している。	・紙の廃止と電子化が一層進み、データ提供や受験生体験のあり方が大きく変わった。円滑な運用を目指しつつ、職員がツールの使用方法やデータの入手法に習熟できるよう、引き続き支援していく。
	5.6.8	進路情報の提供	A	・各学年の進路通信により、模試・学習指導など多岐にわたる内容を伝える。進路室通信も適宜発行し、生徒への情報提供や進路意識の向上を図っている。	・総合型選抜・学校推薦型選抜について、募集定員増に伴い本校の出願者数も増えつつある。出願指導においては「まず学力重視」、そのうえで「機会を広げるために年内入試を活用する」方針を示した。職員と生徒に一層の理解を求めている。
	5.8	進路検討会の実施	A	・前年度入試結果・最新入試動向などをまとめた資料を、学校評議員会・同窓会・PTA等に提供している。	・探究学習と進路活動との連携を深めている。 ・模試について、生徒の負担が軽減する実施法を模索していく。
	1.10	各懇談会への資料提供	A	・大学入学共通テストや年内入試に向けて、進路情報を提供しながら出願指導・確認作業を行っている。	
	7.8	キャリア教育全般	B		
学習指導	5.6	学習計画の立案と実施・シラバスの作成	A	・総合的な探究の時間では、学習指導係が中心となって、テーマ・問いの提示や事例・背景・表現、まとめのための探究のサイクルを回すことをより意識させている。また、教員が適切な支援を行えるよう職員同士の情報共有の機会や職員研修を企画した。加えて、外部の指導員や講師によるワークショップや講演会を企画した。今年度から、いくつかの分野ではゼミ形式を取り入れて、大学の学びの形式が経験できると目指している。	・総合的な探究の時間では、外部コーディネーターを活用し、ゼミ形式での探究を実施した。また、例年より多くの内部講師を招いて講演やワークショップ、教員研修等を実施した。新課程3年目後、総合的な探究においても本校の特色ある形ができてきた。来年度以降、ゼミ形式での実施など新たなスタイルも取り入れながらより良い形を模索していきたい。
	5.6	小論文指導	A		・小論文指導講演会では、予備校講師にお願いした。来年度も意見を聞きながら実施していきたい。小論文模試や個人添削についても、業者選択を含め検討していきたい。
	5.6.7	補習計画	B		・前期模試の出席率は要改善である。生徒のニーズを把握しながら、教員、学年と連携して次年度につなげていきたい。
	5.6	総合的な探究の時間	B	・人権平和学習は、フリスラン国際協会の原真大氏のオンライン講義を受講し、振り返りフォームに感想等も提出した。	・人権平和学習については、今年度校内でオンラインで実施した。教員、学年と連携して次年度につなげていきたい。
	2.3	人権平和学習(10月)	B	・「学習室便利」を発出し、学習室の利用や学習指導室の利用を呼びかけた。	・学習室の形成と学力向上に向けて、特に1年生で家庭学習重点週間を活用して学習計画を立てて、記録する取り組みを行った。特に新入生にはこうした取り組みが必要であると感じた。
	6.7	学習室・学習室の環境整備	A	・長期休業の補習は計画通り実施することができた。それ以外にも各学年による補習が積極的に行われた。	・補習について学習係が中心となった場所、時間、教科など一円管理する体制を整えた。
	6.7	生徒による授業評価の実施と分析	A	・匿名性を担保した授業評価の調査では、GoogleFormを用いて、効率的に行われ、授業改善につなげられた。	
図書視聴覚	6	授業公開・研究授業などの立案・計画	A		
	4.9	日常および学校行事での放送協力	B		・放送委員と協力して放送の準備運営を行うことができた。
	7.9	図書通信の発行	B	・各担当ごとに、着実に計画通り進んでいる。探究学習や進路に関する情報など、必要な適切な資料を提供できるように努めている。	・図書委員会では、生徒が主体となった高松祭の図書企画や読書週間企画、百人一首大会も実施できた。
	5.9	各学年・係・探究活動と連携した資料提供	B	・図書館の機関紙(通信)とGoogle Classroomでも閲覧できるようにした。また図書の新着作業を進めている。	・図書館では例年通り、小論文・面接に必要な資料を随時更新、提供し、受験のニーズに対応できるよう努めている。
生活指導	6.8	小論文・面接などの資料提供	B		・探究学習では、図書館を活用する生徒達もいたが、更に探究担当係や学年と連携を取りながら、より良い方法を考えたい。
	2.4	安心・安全な学校づくり	A	・通学時における交通安全について全校で集まる機会などを捉えながら注意を促してきた。自転車事故などは減少してきた。	・生徒の多くは安心して安全な学校生活が送れているが、スマートフォンの適切な利用については今後も指導の継続が必要とする。
	2.4	基本的な生活習慣の確立	A	・スマホ利用についてはゲーム依存など課題もあるように思う。今後も指導方法などを含め引き続き検討していきたい。	・今年度4件の交通事故が報告されている。その中には交差点での歩行者と車の接触などもあったため、下校の安全については継続指導したい。
	12.9	情報の共有と指導体制の確立	A		・高松Q2宣言について、引き続き指導の中心とする。
生徒会指導	1.4	高松Q2宣言の遵守	B	・高松祭は、昨年に続き、コロナ禍前と同様の形で開催することができた。2日間通って3000人程の来場者を集め盛況であった。感染症、熱中対策やおもてなしの姿勢など今後も生かしていきたい。	・高松祭では制限なしの一般公開、ファイヤーチームの水かけなどコロナ禍前と同様の企画を実施できた反面、施設のお老朽による会場レイアウト変更、暑さ対策など課題も多くなり、今後に取り組むたい。
	2.9	高松祭などの行事の運営	B	・各委員会を含めた役員会を行い、活動状況を互いに把握するとともに積極的に委員会の活動が展開しようとした。	・委員会活動は、顧問の指導により積極的な活動ができた。
	2.9	委員会活動の活性化	B	・新役員体制がスタートして10月に、同窓会の方々とともに、正門の清掃を行った。	・各委員会の活動や各班活動の活躍などを校内でさらに共有していくことで活発な活動になっていくと考えられた。
	7.9	班活動の活性化	A		・高松Q2宣言が30年以上経過したが、風化させず生徒、職員ともに意義を継承していかなければならない。
教育相談	14.7	アンケートによるニーズの把握と問題の発見及び予防	A	・悩みアンケートおよび学校環境適応度尺度「アセス」により、悩みを抱える生徒の面談や相談に活用し、予防に活かすことができた。係や教科担当者等を通して、生徒の情報共有や合理的配慮についての理解を深め、相談力向上事業も活用して生徒・保護者に丁寧に寄り寄り、SC・SSWと連携しつつ道徳のない支援及び環境整備を図っていった。	・係や学年会を通じて、生徒情報、配慮事項、支援方法について共有を行い、個別的な支援を実施した。また、SC、SSWとの連携も行き、生徒・保護者が抱えている悩みに対して、円滑に対応できた。来年度も継続して、生徒・保護者への丁寧な関わり、道徳のない支援・環境整備を図っていった。
	14.7	生徒・保護者の支援及び環境整備	A	・悩みアンケートには、昨年度の反省を踏まえ、回答率が100%近くになった。実施時期を見極めていながら、今後も高い回答率となるよう、努めていきたい。	・アンケートに併せて、昨年度の反省を踏まえ、回答率が100%近くになった。実施時期を見極めていながら、今後も高い回答率となるよう、努めていきたい。
保健衛生	1.4	生徒・職員の健康管理	B	・昨年コロナの影響で中止した救命講習は、職員19名、生徒31名が受講することができた。今年度上半期は感染症の流行に伴い、引き続き安全面に配慮しながら、生徒、職員の健康状態を見守ってきたい。	・来年度の健康診断も安全面やプライバシーを配慮しながら実施していきたい。
	2.4	学校安全の徹底	B		・学校行事等でコロナの制限が緩和されてきている中、安心して(特に感染面に)関してクラスターの発生に注意)行えるよう実施していきたい。
美化	24.9	全校生徒の美化・環境意識の向上	A	・感染症対策として個人ごみの持ち帰りを継続しているが、ごみの量の削減により、結果として清潔な学習環境にも繋がっている。引き続き継続し、環境維持に努めている。	・当番活動により、生徒もゴミの分別が以前より進捗して積極的に活動を行ってくれた。
	24.9	全校生徒の美化・環境意識の向上	A	・ゴミ集積所の当番活動や教室と廊下のワックスかけを美化委員会で行っている。今後も生徒とともに快適な学習環境づくりを行っている。	・個人ゴミは持ち帰りを継続していく。
PTA	10	学校と保護者の連携	B	・PTA行事は概ねコロナ前に戻り、対面で行うことができるようになり、一定の成果を得ることができた。 ・飯田高校サポーターズクラブ設立が決定され、来年度本格実施に向けて連携支援体制作りを進めている。	・PTA評議員会・総会・教育懇談会は実施することができ、当初の目的を達成することができた。 ・飯田高校サポーターズクラブの来年度本格実施に向け、現在、会員登録者を募っている。 ・昨年度までのPTA行事の廃止に伴い、学年行事担当やPTA委員会組織の改定を検討していく。
行政	4	校舎内外の環境整備の推進	A	・腐朽がひどい老朽木の伐採や、近隣住宅敷地に張り出していた樹木枝の剪定等を大規模に実施。倒木処理や枝の付け回等を職員で行う等予算面でも工夫し、敷地内環境整備に取り組んだ。	・正面玄関上部の外壁タイル落下防止のための大規模修繕、西トイレトイレ廊下修繕、老朽化している校舎内外の施設整備を行った。引き続き残された予算の中で、できる限りの改善を進めていく。
	4	エコマネジメント長野への取組推進	A	・正面玄関上部の外壁タイルの落下する恐れがあったため、大規模修繕を実施した。	・節約や節電等への取り組みは継続していく。
	10	来校者等への親切・丁寧な対応	A	・コピー用紙の削減、使用していない教室等の消灯や冷房の適切な使用を呼びかけた。	・来校者や電話対応も引き続き丁寧に行っている。
1学年	5.6.7	iPadの活用と家庭学習習慣の確立	A	・学校活動全般でタブレットの活用については定着してきている。生徒のスマートフォンとタブレットの使い分けに課題がある。	・学校活動全般でタブレットの活用については定着してきている。生徒のスマートフォンとタブレットの使い分けに課題がある。
	7.8.9	挨拶・清掃など基本的な生活習慣の確立	A	・コロナ以前の状況に戻り、出入りに関してはペースをつかみずいという傾向にあり、入校の多い生徒もいるが、想定していたよりは少ない。	・クラスマッチや英語テストでは、クラスの抵抗意識を良い方向で発揮して成果を挙げることが出来た。また、清掃活動では各清掃担当の清掃に真面目に取り組む、常に清潔な学習環境を自ら作り出すことができた。
	3.8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	A	・問題行動も少なく、落ち着いている。いじめ・暴力については、発生してからでは遅いので、機会があるごとに指導したい。	・問題行動も少なく、落ち着いている。いじめ・暴力については、発生してからでは遅いので、機会があるごとに指導したい。
2学年	4.5.6	家庭学習習慣の確立	B	・学習への取り組み、基本的な生活習慣の確立、班活動の両立については、生徒とのこまめな面談と通信指導を行っている。いじめ・暴力の根絶については、HJR活動や授業を通して、その重要性を引き続き理解させたい。家庭連絡を密に行うことで保護者との信頼関係を構築し、協力体制を強めていくことを意識しながら諸々の指導を継続していきたい。	・遅刻が若干増えたが、大きな問題はなく「平和」な1年であった。 ・進歩大会、春・秋クラスマッチ、高松祭、修学旅行、学年クラスマッチ等、2学年で予定された行事を満々クラス内学年内でのまとまり、個人やクラスの特徴を理解し切磋琢磨する姿勢が見られ、単語テスト・模試結果・定期テストへの取り組みも積極性を増した。また、清掃活動も積極的に取り組む。下も清潔に保たれた。 ・学習については、時期ごとに目標を明確化して取り組みをしている。
	6.7.8	挨拶・清掃など基本的な生活習慣の確立	C		
	1.8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	A		
3学年	9.10	保護者との信頼関係の確立	A		
	5.8	目標目的を重視した志望の進路実現	B	・本人、保護者と懇談を丁寧にやり、共通認識の下で進路選択をできるように促した。生活がコロナ禍前の状態に戻り、ほとんどが大学で例年通りの入試を行う形となったが、新教育課程初年度でもあり、最新情報を入手し着実に進路指導ができよう留意した。班活動の大会や行事のコロナ禍前のように実施されたが、最上級生の立場になった生徒たちは多くの苦難があり、生徒たちの気持ちに寄り添い目標に向かえるよう配慮して指導した。過去2年間の状況と変わり、出入りに関してはペースをつかみずいという傾向にあり、入校の多い生徒もいるが、想定していたよりは少ない。	・基本的な問題として、健康管理や意識の面で課題の多い学年であった。欠席や遅刻に関する意識の低さが根底にあることで、集団としての指導がうまくいかず、個々に対応させる得ない状況に陥ったことが一番の反省点である。前年特報や推薦入試決定者指導が機能しない原因の一つであったと考えている。もう一つの原因は担任間の意識の齟齬であった。早速に反省すべきだと思う。
	11	生徒保護者と学校の連携	B	・保護者とは、個別面談や配信メールでの周知などでも連携した。配信メールやグループルームの活用方法を研究するとともに対面の大切さも感じている。その部分では更なる研究が必要である。	・新課程最後の年ということもあり、対応することも多かった。 ・進歩大会、クラスマッチ、高松祭、班活動の各種大会などは積極的に取り組む生徒たちとの姿を見ることができた。 ・保護者とは、個別面談や配信メールでの周知などでも連携した。配信メールやグループルームの活用方法を研究するとともに対面の大切さも感じている。その部分では更なる研究が必要である。